

福井大学附属図書館報

NO.3

図書館 forum



福井大学附属図書館報 No. 3

図書館をコミュニティの場に 小倉 久和 1

『二十四輩順拝図会』の世界
江戸の観光ガイドブック,
「名所図会」の福井 膽吹 覚 2

工学部コアジャーナルについて 小林 克巳 6

《私の推薦書》

ことばとことばの結びつき
- 漢字・漢詩の場合 - 澤崎 久和 8

いでん - 人類遺伝学, 遺伝医学
- 関連の図書から 松木 孝澄 10

意識と物理学 田嶋 直樹 12

電子情報資料の整備・拡充に向けて 高木 昭 14

医学部における学術情報基盤
アンケートについて 木村 幹明 17

知ってた?
毎年 2500 冊も新たに配架されてるって 22

ご存知ですか?
電子ジャーナル・データベースの利用法 24

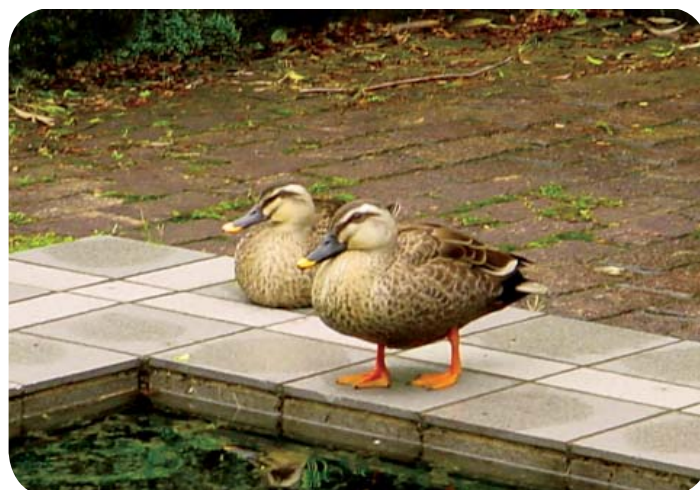
お知らせ 26



総合図書館



医学図書館



図書館前の風景

図書館をコミュニティの場に

附属図書館長 小倉久和

おくら・ひさかず

福井大学の法人化後、福井大学は財政的には非常に厳しい状況におかれており、法人として独立した行動の自由度が広がった、とはとても言えない状況です。大学図書館ももちろん例外ではありません。このような状況では、当面の問題をこなすことに汲々とし、なかなか未来の展望を描くことができません。しかし、このような状況にあるからこそ、理念を掲げ展望を切り開く努力をすることが求められていると思います。

福井大学は、2005年度から電子ジャーナルの全学共通経費化を実施しています。数年前から国際学術誌の学内購読が大きく減少しており、法人化直後には、研究費大幅削減がこれに追い打ちを掛け、暗澹たる状況がありました。この全学共通経費化は、大学執行部としての大英断で、学内の学術情報基盤について大学としての位置付けを明確にし、私たちに1つの展望を与えてくれたのではないかと思います。2004年度まではおもに工学部負担で購読を続けて来た文献データベースのCAonCD（Chemical AbstractsのCD版）が2005年1月には購読中止となりましたが、これも大学側の英断で、2005年9月からCAを含むSciFinderが、工学部の半額負担で導入できることになりました。さらに、工学部では、工学部共通経費でコアジャーナル制度を発足させ、学術情報基盤を支える仕組みが

できてきました。医学部では、医科大学発足当初から大学共通経費によるコアジャーナルの購読が行われて来ましたが、その工学部版が発足したのです。

電子ジャーナルやデータベースなどは研究室にしながら世界の文献にふれることができます。コアジャーナルは冊子体のジャーナルも含んでいて、それらは図書館に配架されますから、いちいち出向かなくてはなりません。しかし、是非、図書館に脚を運んで下さい。実際問題として、教職員の図書館への入館者や直接の利用者は非常に少ないのです。せっかくの施設や設備がもったいないこともありますが、教職員の方々にはもっと積極的に図書館を訪れて頂きたいと思っています。図書館はいろいろな意味で転換期にあります。地域に開かれた大学図書館というのも大きな外圧としてあります。しかし、その前に、大学の構成員がもっと図書館を利用して頂く必要がある、学内に開かれた図書館、学内のコミュニティの場になってほしい。「メディアコモン」というのは数年前から図書館と総合情報処理センターが中心となって、文京地区で新規要求している施設、コミュニティの場ですが、大学の中期目標・計画にもはいつています。これを具体化し実現するためにも、図書館をもっと利用して頂き、図書館をコミュニティの交流の場としましょう。

『二十四輩順拝図会』の世界

江戸の観光ガイドブック、 「名所図会」の福井

留学生センター助教授 膽 吹 覚

いぶき・さとる

江戸時代後期、日本各地の名所旧跡・年中行事を細緻な挿絵を交えて紹介した観光ガイドブックが多く出版され、たちまちベストセラーになった。いわゆる「名所図会」である。「名所図会」に関しては、夙に岩波講座「地質学及び古生物学、鉱物学及び岩石学、地理学」の第16回配本（昭和7年6月）に、三好学氏による「名所図会解説」があって、「名所図会」は、次の6部に分類されている。

- ① 一国、数国又は一地方に関するもの（『都名所図会』『江戸名所図会』など）
- ② 街道筋に関するもの（『東海道名所図会』『中山道名所図会』など）
- ③ 庭園に関するもの（『都林泉名勝図会』など）
- ④ 信仰に関するもの（『芸州巖島図会』『金比羅参詣名所図会』など）
- ⑤ 歳時記及び花暦に関するもの（『東都歳時記』『江戸名所花暦』など）
- ⑥ 『唐土名所図会』

私の知るところでは、残念ながら越前国一国、若狭国一国、あるいは北陸街道筋の名所旧跡を中心に紹介した「名所図会」は、江戸時代には出版されることはなかったようである。『越前国名所図会』『若狭国名所図会』『北国街道名所図会』といった書名の「名所図会」は刊行されなかったのである。しかし、そうだからといって、江戸時代の越前・若狭両国に名所旧跡がなかったわけではない。『二十四輩順拝図会』『日本山海名産図会』『日本山海名物図会』などには、越前国・若狭国の名所旧跡・名物名産品

がいくつか紹介されている。

そこで今回は『二十四輩順拝図会』を取り上げ、江戸時代の越前国（現在の福井県嶺北）の名所旧跡の案内をかねて、江戸時代の観光ガイドブック、「名所図会」の魅力を紹介したい。

『二十四輩順拝図会』は、三好氏の分類の④「信仰に関するもの」に属する。本書は浄土真宗の宗祖、親鸞聖人並びに聖人の高弟24名と所縁の深かった寺院や名所旧跡を順に参拝できるように編集されたガイドブックである。とりわけ北陸地方は、親鸞聖人が一時期、越後国へ流されたこともあって、北陸街道沿いには親鸞聖人に縁の深い名所旧跡が多くあり、また、越前国吉崎には本願寺第8世蓮如上人が開かれた吉崎御坊がある。

本学図書館所蔵本は、縦26cm、横18cmの美濃本（美濃半紙を縦二つ折りにした寸法の本）。前編5巻5冊、後編5巻5冊の計10巻10冊。前編は享和3年（1803）、後編は文化6年（1809）の刊行。表紙は朱色で、その左肩部に「二十四輩順拝図会」の刷り題簽（外題）がある。内題も同じく「二十四輩順拝図会」。著者は了貞。了貞は河内国にあった真宗大谷派（東本願寺派）専教寺の住職であること以外、その生没年、俗名などは現在のところは不明である。挿絵は竹原春泉斎である。本書前編巻1には山城・近江、巻2には越前・加賀、巻3に越中・越後、巻4に越後、巻5に信濃・上野が、また、後編巻1には武蔵、巻2には下総・常陸、巻3には常陸、巻4には陸奥・出羽・下野、巻5には相模・甲



【挿絵 1】九十九橋

斐・駿河・遠江・三河・尾張・美濃・伊勢が、それぞれ収録されている。なお、現在では、『二十四輩順拝図会』は、『日本名所風俗図会』第16巻（角川書店）に、その全文が翻刻されて挿絵とともに掲載されている。

【挿絵1】は九十九橋を北西方向から描いた鳥瞰図。その左端に「福井御城」の一部が見える。また、絵の左上隅に「其二」とあるように、本書には、この挿絵とは別にもう1枚、九十九橋南詰の城下町（現在の久保町周辺）を描いた半丁の絵が載る。

絵の左上部から「く」の字に折れ曲がって流れている大河が足羽川。絵の左上部、その足羽川に注ぎ込む流れは、現在の荒川であろう。「九十九橋」は絵の下部、足羽川に南北に架かっている。この橋は江戸時代、その一時期を除いて、足羽川に架かる唯一の橋であった。江戸前期の地誌、『越前地理指南』に拠ると、当時の九十九橋は全長88間（158.4m）、幅3間（5.4m）であったという。

九十九橋は挿絵に描かれているとおり、その北半分が板橋で、その南半分が石橋というたいへん珍しい造りの橋であった。その理由について、『二十四輩順拝図会』は、次のように記している。江戸時代の足羽川は、しばしば氾濫し、その水の勢いは強固な石橋でも流されてしまうほどであった。そこで、橋の半分を板橋にし、洪水のときは、まず板橋が流れ落ち、川水の勢いを緩め、その結果として南半分の石橋が残るように工夫したという。この工夫によって、洪水後の橋の修復費用も大幅に軽減されたという。なお、このことは江戸後期の紀行文学、橘南谿の『東遊記』巻二「九十九橋」にも、挿絵を添えて紹介されている。

絵にあるとおり、九十九橋の両端には門があり、その北詰（絵の左下隅）には高札場と常夜灯があった。この橋は美濃国から福井を経て、加賀、越中、越後に至る北国街道の一部（現在の芦原街道）で、江戸時代は北陸道の交通の要所であった。また、『日



【挿絵2】湯尾峠

『本山海名産図会』にも九十九橋を描いた挿絵が掲載されており、そこには橋の南詰で菅笠を売る人の姿が描かれている。菅笠は江戸時代の旅人の必需品。福井の名産品のひとつであった。

【挿絵2】は、湯尾峠の茶屋の一景。この峠は、南越前町湯尾から同町今庄へ通じる北国街道の峠。絵の右端には湯尾峠の南方にある「木の目峠」が、さらに、絵の右中央部には、遙か遠くに越前国と近江国との国境近くにある「中河内」が見える。

絵の右下隅、荷物を杖に引っ掛けたり、肩に背負ったりして、この峠を越えて、北へ向かう男が3人。その向こうから男たちの荷物の4・5倍ほどはあろう炭俵を軽々と背負った女が、これまた3人。その先頭に行く女は煙管を右手に燻らせ、その隣の女は炭俵の上にもう一つ風呂敷包みを乗せている。勝負は一瞬にて落着。男たちは笠を深くかぶり直したり、女たちと目を合わさないようにうつむきながらそそくさと路傍へ移動したりして、この後、あっけなく

道を譲るのであった。

江戸時代、この峠には4軒の茶屋があって、そこで疱瘡（天然痘をはじめとする皮膚病全般）にご利益のあるお札をもらい、この峠の西側にある八十八箇所道の孫嫡子社へ参詣した。絵の左上部、茶屋の奥には「孫嫡子大明神」と書かれた暖簾が見え、その左手には孫嫡子大明神を祀る神棚がある。店先には3人の男たち。その右端の男の右頬には疱瘡の痕。茶店の女からお札を受け取り、懐に用意してきた浄財を渡そうとする。すると「この男、なかなかの上客」と見たもう一人の茶屋の女が、すかさず奥から現れて、「まあ、お茶でもどうぞ」と差し出す。これではこのまま懐から出すわけにはいかないもの……。店先の街道にはお供の少年を従えた若い女性が1人。頭巾をかぶり、袖で顔を隠している。その合間から見える顔には、これまた疱瘡の痕。女性にとってお肌のトラブルは大問題。人目をしのんで神頼み。この後、孫嫡子社へ参詣し、その近くに待た

せてある駕籠で帰るはず。この茶屋で授けられるお礼は、西鶴の『男色大鏡』、近松門左衛門の『傾城反魂香』、十返舎一九の『湯尾峠孫嫡子』などの文学作品にも登場するほど、全国的に有名であった。

『二十四輩順拝図会』には、この他に「荒乳山」「敦賀之湊」「一向宗加越の戦い」「出雲山毫撰寺」「山元山證誠寺」「山元山證誠寺の勅号を賜ふ」「上野山誠照寺」「空然坊車道場」「橋宗賢が宅に聖人弥陀仏の像を写し給ふ」「東本願寺御門跡御坊所」「西本願寺御門跡御坊所」「真宗寺」「興宗寺」「船橋」「柘植の旧跡」「吉崎御坊」「嫁おどし谷の由来」「三国湊」「三国の遊女町」などの挿絵が掲載されている。今、私は、これらの挿絵に、『日本山海名物図会』に載る「越前奉書和紙」、『日本山海名産図会』に載る「若狭鰯網」「越前海胆」、さらには『若狭八景』の絵図などを加えて、新たに「福井名所図会」を編むことができるのではないかと構想中である。「名所図会」は確かに江戸時代の古典籍であり、過去の遺物かもしれない。しかし、それらを再編集することで、福井の文化をビジュアル的にとらえ、それを国内外へ発信することができるのではないかと考えている。近年、福井県は観光ビジネスに力をいれ始めたと聞く。私が構想中のこの「福井名所図会」は、そうした動きにもリンクするはずである。

さて、江戸時代に出版、あるいは写本として成立した越前・若狭両国（現在の福井県）に関する地誌類は、現在は杉原丈夫・松原信夫共編『越前若狭地誌叢書』全3冊（昭和46・48・52年刊）に、計36点が翻刻されて刊行されている。杉原先生は本学教育学部元教授で、江戸時代の越前・若狭両国に関する地誌類の蒐集と研究に尽力された方である。私も本稿を成すにあたって、この叢書を大いに参照させていただいた。今、杉原先生の学恩に報いるべく、本誌紙面を借りて、『越前若狭地誌叢書』に収録された地誌類を列挙し、私を含めた後学の徒の一助とならんことを期して、この筆を擱く。

- 上巻（8点収録）
 - ① 越前国絵図
 - ② 越前地理指南
 - ③ 越前地理梗概
 - ④ 越前国古城跡并館屋敷蹟
 - ⑤ 帰鴈記
 - ⑥ 越前国名勝記
 - ⑦ 越藩拾遺録
 - ⑧ 南越温故集
- 下巻（10点収録）
 - ⑨ 若狭国伝記
 - ⑩ 若耶群談
 - ⑪ 若狭郡県志
 - ⑫ 越前国寺庵
 - ⑬ 越前鹿子
 - ⑭ 大野領寺社記并雜記
 - ⑮ 大野寺社縁起
 - ⑯ 大野城下火変記
 - ⑰ 越前往来
 - ⑱ 越前国産物
- 続巻（18点収録）
 - ⑲ 雲の濱見聞録
 - ⑳ 若狭八景
 - ㉑ 越前新風土記
 - ㉒ 敦賀一目鏡
 - ㉓ 越前鯖江志
 - ㉔ 深山水
 - ㉕ 越前国主記
 - ㉖ 越前古名考
 - ㉗ 若狭国志
 - ㉘ 若狭国志伴信友註
 - ㉙ 足羽社記略
 - ㉚ 気比太神宮俗談
 - ㉛ 刃根系図
 - ㉜ 舟津社記
 - ㉝ 大塩八幡宮縁起
 - ㉞ 市布村氏神由来書
 - ㉟ 劍神社縁起
 - ㊱ 越前志（抄）

工学部コアジャーナルについて

工学部図書検討特別委員会委員長 小林 克巳

こばやし・かつみ

1. はじめに

図-1をご覧ください。平成17年度の外国雑誌購読にける額が激減しました。教育地域科学部の分も含めた額で、このうち約3/4が工学部の分ですが、おそらく法人化後の各教員への配分予算が激減し、論文誌を購読する余裕がなくなった結果でしょう。

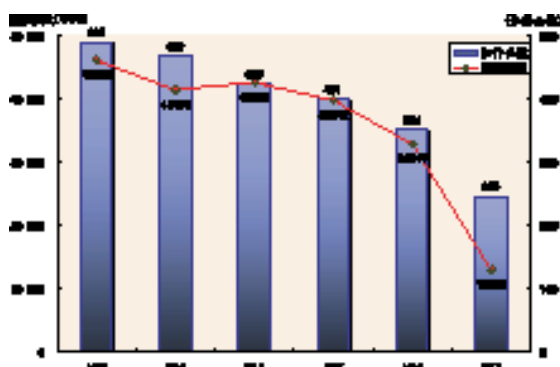


図-1 文京キャンパス外国雑誌購読経費の推移

大学としては、全学共同利用の観点から共通経費化して電子ジャーナルの収集を図る方向であり、電子ジャーナル化されていない学術雑誌は部局等で収集することを基本方針としていますが、平成13～15年度に比べて外国雑誌購読経費は1/3です。これは何を意味するのでしょうか。教育研究に必要な基礎資料がなくなってしまうということです。工学部としてこの憂慮すべき状況を何とかしたいと考え、特別委員会を組織してまとめたのが「工学部コアジャーナル制度」で、平成18年度の購入分から実施することになりました。

2. コアジャーナルとは

「コアジャーナル」は、多くの教員が共通的に利用

するものというイメージが強いと思います。しかし、例えばひとつの学科単位でみても、それを構成する多くの領域があり、それぞれで利用する論文誌が異なります。場合によっては、その領域の教員が一人しかいないこともあります。これを共通的でないからといって、切り捨ててしまうことはできません。それでは大学でなくなってしまいます。そこで、どんな小人数のグループでも必要なものは「コアジャーナル」と考えることにしました。今回の「工学部コアジャーナル制度」が、「コア」とは言っても、限られた予算の中で教育研究に必要な基礎資料を維持し、教育研究環境の整備、向上を図っていくための仕組み作りであると解釈し、従来からの個々の教員の研究費に依存する部分と工学部として共通経費化する部分とをさじ加減して学術雑誌購入の減少に歯止めをかける方法を考えました。したがって、「コアジャーナル」の範囲を冊子体に限ることなく、電子ジャーナル、データベースなどを含め、大学として整備しきれていないもの全てを含めることにしました。また、以下に説明する費用負担の観点から、大学が契約する電子ジャーナルに含まれるタイトルの冊子体も「コアジャーナル」に含めて考えることにしました。

3. 仕組みの概要

まず、学科単位で優先順位をつけてコアジャーナル推薦リストを作成していただきます。利用者グループが他学科あるいは他部局にまたがるものは、世話人の所属する学科からの推薦リストに含めていただくことにします。推薦基準は学科の考え方にお任せすることにしました。次に、各学科からの推薦リストをまとめ、主に重複をなくすことを目的に各

学科へ配布してリストの修正をお願いします。これをもとに、工学部共通経費の予算枠に収まるように「工学部コアジャーナル」を決定します。

問題は工学部共通経費の予算枠にどう収めるかです。購入費用をすべて個々の教員の研究費にしてしまうと図-1のような結果になります。すべてを工学部の共通経費とすると、各教員からの購読希望が増えて工学部が破産状態となることは容易に想像できます。そこで、「コアジャーナル」にしたら購読料の30%は個々の教員の研究費で負担（購読者がグループであればグループで30%）、70%は工学部共通経費で負担としました。ただし、図書館で開架することにしました。「コアジャーナル」にしないで購読する場合にはその逆で、購読料の70%は個々の教員の研究費で負担、30%は工学部共通経費で負担としましたが研究室において管理してよいことにしました。大学が契約する電子ジャーナルに含まれるタイトルの冊子体購読費用は電子ジャーナルの契約に含まれるわけですから、個々の教員も工学部も負担はないことになります。そこで、不公平感をなくすために、これを購読する教員は、図書館開架にするなら30%、研究室管理にするなら70%を個々の研究費から工学部共通経費に戻していただくことにしました。

購読者側にとっては、個々の教員の研究費からいくら支出するかと、どのような管理方法で利用できるか（研究室管理か、図書館開架か）が関心事ですから、図書館開架にするなら30%負担として購読を促し、研究室管理にするなら70%負担として際限なく購読希望が出てくるのを抑え、ある程度工学部共通経費を支出しながら外国雑誌購入規模が減少しないようにさじ加減したわけです。

4. コアジャーナル制度の役割

本制度の仕組みを作るためにアンケート調査を行い、同時に自由意見も収集しました。多く寄せられた意見は、それぞれの分野の電子ジャーナル、データベースを利用できるようにしてほしいということと、学術雑誌の購入は大学として共通予算化し

てやって欲しいということでした。各教員への配分予算が激減している中で、インフラの整備は大学としてやっていただきたいという叫びです。大学としては、全学共同利用の観点から共通経費化して電子ジャーナルの収集を図る方向ですが、大学としても厳しい予算の中で全ての教員の要求を満たすことができない部分も出てきます。これを補填するのが工学部コアジャーナル制度と言えます。インフラ整備の主体は大学にあり、工学部コアジャーナルを大学として整備していただきたいものの要求ベースにしていくことが重要と思います。実際に平成18年度のコアジャーナルを決定する過程で、工学部としての予算内に収まらず断念したものを、大学として整備していただいたものもあります。

5. おわりに

「工学部コアジャーナル」としたものは全て図書館開架になります。あるいはネットワーク上で利用できることになります。つまり、費用負担をしないでなくても誰でも利用できることになります。しかし、大学としても個々の教員としても厳しい予算の中で、工学部の教育研究環境の維持と向上に対する努力であることをご理解いただき、頻繁に利用される方には学科・部局をこえて購読者グループに入らせていただきたいと思います。購読者グループとしての費用負担をいただいて、我々福井大学の教育研究環境の維持と向上にご協力いただきたくお願いいたします。

平成18年度については、さじ加減が上手くいったのかどうか分かりませんが、高額であることを理由に採用できなかったものを除き、推薦されたものをすべてコアジャーナルとして採用できました。ただし、そのためには、いろいろやり繰りしている予算を当て込んでいます。平成19年度以降は何を当てにできるか分かりませんし、図書館の電子ジャーナル整備状況も分かりませんし、まさに「自転車操業」的なところがありますが、厳しい予算の枠の中で少しでも教育研究環境の改善をしていこうとしていることをご理解いただければ幸いです。

私の推薦書

ことばとことばの結びつき —漢字・漢詩の場合—

附属図書館運営委員

澤 崎 久 和

さわざき・ひさかず

昨年、二本足で立ち上がるレッサーパンダの風太の姿が人気を集めた。『風太くんのすべて』という本まで出たそうだ。鯖江市西山公園のレッサーパンダも立つという。そこで質問を一つ。昔の人が風太の立ち姿を目にしたならば、これを古典中国語（漢文）でなんと表現しただろう。ヒント。漢字二字で「～立」だが、「直立」ではない。

正解は後にして、ここに推薦するのは、昨秋刊行された小川環樹「**唐詩概説**」（岩波文庫）である。本書は、1958年に中国詩人選集の別冊として刊行され、著者没後の1997年、『小川環樹著作集』（筑摩書房）第二巻に収録された。このたび岩波文庫に収められたのは三度目の刊行ということになる。唐詩についても特定の詩人や分野を限った研究書ならば、この半世紀の間に少なからず刊行されているが、唐詩の歴史、形式、語法、押韻、助字の他に、詩人年表や地図、参考書の解説なども盛り込んだ概説書は今もってまれである。私は学生時代に手にして以来、いまもときどき読み返す。

半世紀も前に刊



唐詩概説

行された概説書がなぜ今も読まれ続けているのか。この点については巻末に収められる川合康三氏の解説を参照していただくとし、私なりに本書の魅力をあげれば、たとえば助字の意味用法に関する解説。助字とは副詞・接続詞・否定詞・疑問詞などで、詩のもつ微妙なニュアンスを左右する。「空」と「虚」とはともに「むなしく」とよむが、両者にはどのような違いがあるのか。本書は唐詩を引用しつつ簡明に解説する。またたとえば、毎年授業で学生に漢詩を作らせるさい、本書から韻目表と韻字表をコピーして配布する。今日では作詩のための懇切丁寧な手引書が多数出版されているにもかかわらず、近体詩の諸規則を簡潔に説いた箇所と合わせて、本書のこれらはきわめて有用である。そしてなにより、第一章から五章にわたる唐詩の歴史に関する叙述が創見と感性とにあふれていること。盛唐期には「女流詩人にとぼしい」という奇異な現象、奈良・平安時代に初唐と中唐以降の詩は受容されたにもかかわらず盛唐詩が「飛びこえられている」不思議。韓愈の詩の、「壮大なものをえがきつくそうとする心と平凡な生活をありのままに写そうとする心とは、矛盾するもののような」という指摘。これらは今なお十分には解明されていないことがらであって、本書は読者への問いかけに満ちている。

とりわけ興味深いのは第七章の「唐詩の語法」である。「ひとりば塵埃の馬を奔らせ、ひとりば風波の船を汎ぶ」を例に「日常的な言語」と「想像的な文体」との発想の相違を説く下りについては本書を直接読んでいただくとし、平易な例をあげれば、「風竹」という語について、風と竹ではなく「風にそよぐ竹」であると、語と語とが結合して生み出された詩語の持つ独特の陰影を知ることの大切さを説く。それでは「風月」「風花」「風光」などはどうだろう。本書のさりげない言葉がヒントになって、読者は容易に新たな課題に導かれることになる。

さてここで冒頭にあげた風太の立ち姿にもどろう。正解は「人立」。この場合の「人立」は「人が立つ」ではなく、「人のごとく立つ」の意。「人」は一般に名詞だが、ここでは「立」という動詞を修飾している。つまり、「人」の属性である「二本足で立つ」という状態をもちいて、「立」を修飾しているわけである。六朝時代の『搜神記』という書物には、魏の曹操を悩ましたことで知られる左慈が羊に化けて突然「人立而言曰…」(羊が人のように立ち上がって口をきいて言った)とある。本来名詞とされる語が動詞を修飾する「人立」のよ

うな構造の語は、今日の日本語の中にも多数残されている。「林立」は実際に林が広がっていることを言うわけではない。「鯨飲」「蚕食」「蛇行」なども同じ。『唐詩概説』にはもとより風太のことは出てこないが、本書のどこを開いても語と語の結合が生み出す独自の意味について限りなく鋭敏にさせてくれる。文庫になって容易に入手できるようになったのは喜ばしい。

本書を読み終えたあとは、ぜひとも村上哲見著「唐詩」(講談社学術文庫)と松浦友久著「漢詩—美の在りか—」(岩波新書)に進んでほしい。唐詩をはじめとする中国の詩の魅力を満喫することができるだろう。



唐詩



漢詩—美の在りか—



いでん～人類遺伝学， 遺伝医学～ 関連の図書から

附属図書館運営委員

松木 孝 澄

まつき・たかすみ

福井大学附属図書館報 No.1 に引き続き、今回は医学図書館備え付けの図書を中心に、各学部新入生から大学院博士前期課程の院生を対象として書かれている資料の一部を紹介します。

【NHK スペシャル 驚異の小宇宙 人体Ⅲ 遺伝子】vol 1-6, DVD/Video, NHK エンタープライズ (1999) [1. 生命の暗号を解読せよ～ヒトの設計図～ 2. つきとめよ ガン発生の謎～病気的设计図～ 3. 日本人のルーツを探れ～人類的设计図～ 4. 命を刻む時計の秘密～老化と死的设计図～ 5. 秘められたパワーを発揮せよ～精神的设计図～ 6. パンドラの箱は開かれた～未来人の设计図～]。NHK 放送番組のDVD/ビデオ版。20世紀末までの知見と将来展望，その問題点を基本からわかりやすくビジュアルに解説している。

【DNA；二重らせんの発見からヒトゲノム計画まで】ジェームス・D. ワトソン，アンドリュー・ベリー(著)，青木薫(訳)，講談社ブルーバックス(上・下)(2005)。DNA二重らせ

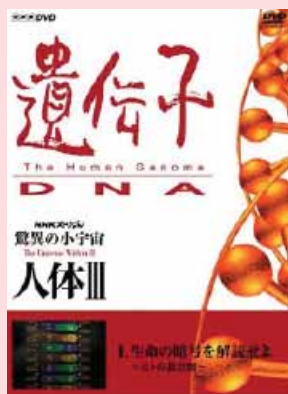
ん構造の発見により1962年のノーベル医学生理学賞を受賞したワトソンとノンフィクション作家ベリーによる，DNAにまつわる研究者間の人間ドラマとヒトゲノム計画の将来展望をわかりやすく記した入門書。

【DNAからみた日本人】ちくま新書(525) 斎藤成也(著)，筑摩書房(2005)。福井出身で新しい生物進化の解析法を発見した代表的な分子人類学者によるヒトの起源，日本人の祖先に関する入門書。

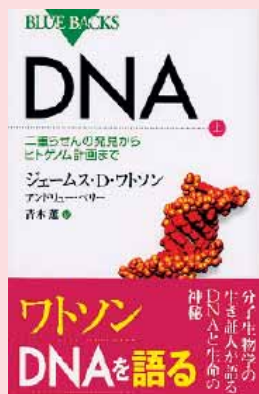
【遺伝子で探る人類史】ジョン・リレスフォード(著)，講談社ブルーバックス B-1491(2005)。遺伝子・DNAからわかる人類の祖先や民族の移動など，人類史の最新の知見をわかりやすく解説した入門書。

【Y染色体からみた日本人】岩波科学ライブラリー110，中堀豊(著)，岩波書店(2005)。Y染色体と性決定の研究者が独自の視点をおりまぜて語る日本人の歴史。

【ゲノム医科学がわかる】管野純夫(編)，羊土社(2001)。ヒトゲノム計画が一段落した



NHK スペシャル
驚異の小宇宙 人体Ⅲ 遺伝子



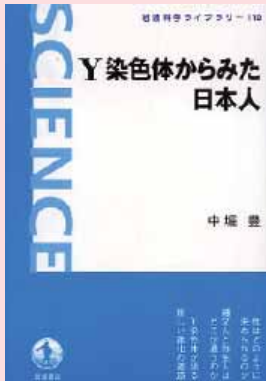
DNA；二重らせんの発見
からヒトゲノム計画まで



DNA からみた日本人



遺伝子で探る人類史



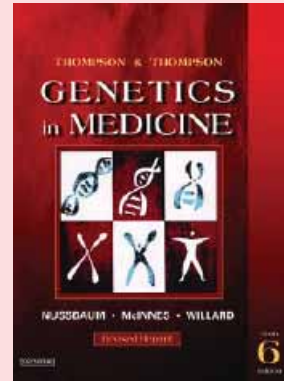
Y染色体からみた日本人



ゲノム医学がわかる



ゲノム医学からゲノム医療へ



Thompson&Thompson
Genetics in Medicine

後の医科学における今後の展望を2001年の最先端分野から網羅してある。医科学最先端分野の基礎となっている概念を通覧するのに適している。

『ゲノム医学からゲノム医療へ』中村祐輔(著), 洋土社(2004)。VNTR 遺伝子多型の発見者で、日本におけるオーダーメイド医療の提唱者によるゲノム医療入門書。

『Thompson&Thompson Genetics in Medicine』6th ed., Nussbaum et al. (eds) Saunders/Elsevier (2004)。人類遺伝学・遺伝医学の医学部学生向けの標準的教科書。

『DNA 鑑定のはなし』福島弘文(著), 裳華房(2003)。福井出身の現役法医学者による親子鑑定や犯罪捜査の個人識別などのDNA鑑定に関する入門書。

『DNA 鑑定 - その能力と限界 -』勝又義直(著), 名古屋大学出版会(2005)。多数のDNA鑑定や難事件の鑑定を経験している法医学者によるDNA鑑定に関する等身大の実像。院生, 法医学者, DNA鑑定にかかわる民法, 刑法関係者を主な対象としており, Reference bookとしても有用。

『Forensic DNA Typing』2nd ed. Butler JM (ed), Elsevier/Academic Press (2005)。マイクロサテライト・STR多型を中心に法遺伝学領域でのDNA多型検査の基本から応用を詳述した本。Reference bookとしても有用。

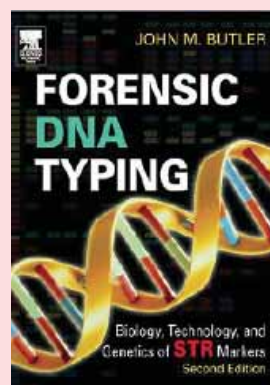
『DNA 多型』vol.2-vol.13 DNA多型学会(編), 東洋書店(1994-2005)。医学, 動物学, 植物学, 水産学, 人類学, 法学などの



DNA 鑑定のはなし



DNA 鑑定-その能力と限界-



Forensic DNA Typing



DNA 多型

研究者による、DNA 多型とその応用に関する年 1 回の学術研究集会報告集。

「Human Molecular Genetics」3rd ed. Strachan & Read (eds), Garland (2004) / 「ヒトの分子遺伝学」第 3 版, MEDSi (2005)。博士前期課程以後を対象とするヒト分子遺伝学の標準的な教科書。Reference book としても有用。



Human Molecular Genetics / ヒトの分子遺伝学

意識と物理学

苦心して執筆した論文で首尾一貫した理論を展開してみせたつもりが、読んだ人が話題にしてくれるのは、理論の全体像でなく、その組み立てに使った材料のことだけ、それもすでに人の手垢にまみれた話ばかりで、私の苦労は何だったのかと呆然とすることがあります。他人が参考文献として引用してくれたのはよかったが、猫も杓子も手掛けている研究テーマに関する一論文という位置づけで、がっかりすることはしょっちゅうです。

自分は論文の執筆を重く考え過ぎているのだと頭の隅ではわかっているのですが、それへの戒めとして、文章を書く前に読み直すことにしている名文があります。それは、「**ファウスト**」の冒頭にある「前狂言」で、「永くのちの世に残って行く本物を創りたいと願う」座付詩人に対し芝居小屋の座長が言うせりふです。特に効き目のある十行くらいを抜書きしてたまに復唱するのですが、そのなかから一文を引用しましょう。

「たといあなたがまとまったものを出したところで、見物はそれをばらばらにして食べるんですからな。」(高橋義孝訳, 新潮文庫)

この小文も、まとまりのある主張をしたいという欲をすてて書くことをお許しください。

私は福井に来て数年間は読書をほとんどしない状況だったのですが、昨年になって、健康への不安からエアロバイクを家で買ったところ、漕ぎながら本が読めることに気づき、二宮金次郎方式で運動不足と読書不足が同時に解消できるようになりました。

そうやって読んだ本から紹介するのは、「**皇帝の新しい心**」です。著者は著名な数理

附属図書館運営委員

田嶋直樹

たじま・なおき



ファウスト



皇帝の新しい心

物理学者である
ロジャー・ペン
ローズで、原著は
1989年、邦訳
は1994年に出版
されました。十
年くらい前に吉祥
寺の古本屋で買っ
てから去年まで積
読(つんどく)状

態だったのですが、十年間この大著の背表紙を眺めることで私の心の準備が整っていたのか、かなり面白く読めました。エアロバイクの上で2カ月くらいかけて読み終わりました。

題名に違和感を感じる方も多いと思いますが、これは「裸の王様」(The emperor's new clothes)の服(clothes)を心(mind)に置き換えたもので、短刀直入に言うところ「人工知能に心などない」という意味です。しかし、この本の主題は、人工知能批判の部分より、むしろ「意識とは何か」という問いかけにあります。

物理学で、意識との関係が論じられることのある問題と言えば、「時間の向き」(過去と未来の区別はどうやってつくか)と、「量子力学の観測の理論」(量子力学から古典力学を導くために必要な木に竹をつなぐような理屈)の二つがあります。最初の「時間の向き」の問題を、場の理論の観点でさらに押し進めて次のような形で著者は表現しています。

「物理的記述の中の時間は実際には少しも流れていない。あるのは実は、静的に見える固定した時空であり、我々の宇宙の事象はその中に繰り広げられているのである。なのに、われわれの知覚に従えば時間は確かに流れる。」

そして著者は、意識を考えるときは時間に対して通常の物理法則を適用できないのではない

かと主張します。そのために、観測の理論、エントロピー増大則、量子重力理論、ゲーデルの不完全性定理などの知的興奮を喚起する定番の課題を全て意識という現象に結びつけて論じているとしています。端的に言ってたぶん勇み足でしょう。しかし結論を別にすれば、物理学の専門家にも参考になる話題に満ちた好著でした。

ただし、専門外の方には、興味のある部分だけを「ばらばらにして食べる」ことをお勧めします。本書の大半はチューリングマシンと不完全性定理、フラクタル、および物理学の諸分野の解説です。これらを専門教育を受けていない人が読んでどれほど分かるのか疑問で、また、意識に関する議論の部分を読むためには是非読んでおかなければならないということはないように見受けられました。

非常に西歐的だと感じたのは、著者が意識を尊ぶ姿勢です。無意識はアルゴリズム的で(したがって人工知能で代用できる)、意識こそが因果律に従う物理法則の外にあるのだとまで言っています。著者の数学的プラトニズムは無意識とは関係が薄いようです。私などは、むしろ、無意識が思考も決定も為し、意識はそれを見つめているだけという考えなので、こういう異質な主張は新鮮でした。

また「意識の不思議は大人でなく子供が一番よく知っている」というくだりにも感心しました。なるほど、私も子供のころに死・意識・時間などに不思議を感じ、それらがどうしても理解できないという頃がありました。大人はそういった問題に未解決状態のまま慣れてしまっただけなのかもしれません。ペンローズの研究の動機は、子供のときの問題意識を今まで持ち続けていることから生じていて、そのことこそが彼が大学者たる所以ではないだろうか、などと想像が膨らみました。

電子情報資料の整備・ 拡充に向けて

学術情報課長 高木 昭

たかぎ・あきら



1. はじめに

情報技術の進歩に伴い、大学図書館における学術情報の電子化は、急速な変化が起こっています。

1990年代前半に始まった、学内LANによるCD-ROMサーバー検索システムは、その後の爆発的なインターネットの普及にともない、電子ジャーナルやオンラインデータベースへと置き換わってきました。

本学でも、旧福井大学でCAonCD、科学技術文献速報等、旧福井医科大学ではMedline、医学中央雑誌等の学術情報データベースをCD-ROMサーバーにより提供してきました。

また、平成14年度から科学技術基本計画における重点4分野に対する文部科学省からの電子ジャーナル経費予算措置により、旧両大学において、それぞれの特色を生かした電子ジャーナルコンテンツの導入を行い、統合・法人化以後も充実・拡充を図ってきました。

2. 電子ジャーナルの整備について

学術情報基盤の重要な要素である学術雑誌の大学全体としての購読誌数は、毎年激減してきました。

学術雑誌の購入の意思決定は、従来から教官個人あるいは学科、講座に委ねられ、雑誌価格の高騰及び教育・研究関連予算の伸び悩みといった原因により、新規雑誌の購読はもとより継続購読すら困難な状況となってきました。

この現状を踏まえて、図書館では、統合後の第1

回附属図書館運営委員会（平成15年12月開催）において「電子ジャーナル・学術情報データベースの整備基本方針」が了承され、16年度以降の電子ジャーナル安定供給のため、財源の共通経費化について働きかけていくこととなりました。

電子ジャーナルは、インターネットを介して、24時間いつでも利用でき、印刷物に比べ、記事の発表から閲覧までのタイムラグが小さく、速報性に優れており、検索機能や学術文献情報データベースとのリンク機能等の利便性に優れており、大学にとって不可欠な情報資源です。

また、製本の必要が無いため、経費や所蔵スペースの節約を図ることも可能です。

このように電子ジャーナルは非常に便利で必要不可欠な情報資源ではありますが、購読を中止した後は、バックナンバーの利用もできない場合があり、かつ将来に亘ってアクセスの保障が得られないケースがあり得ます。

また、主な電子ジャーナルコレクションにおいては、前提条件として当該年を基準とした購読規模（主に購読金額）を維持する必要があるため、恒常的に安定した財源の確保が不可欠となります。

そのため、平成16年5月開催の附属図書館運営委員会において「電子ジャーナル及び学術雑誌整備基本方針」を策定し、大学当局に働きかけ、その結果、第2回財務・施設委員会（平成16年10月開催）において、平成17年度電子ジャーナル整備のための経費について共通経費化が認められ、Elsevierをはじめとする6コレクションについて全学的に利用できる体制を確立しました。

このような状況を踏まえて、平成 17 年 7 月開催の附属図書館運営委員会において、下記の 3 項目を基本とする「平成 18 年度電子ジャーナル等整備計画」を策定するとともに、第 10 回財務施設委員会(平成 17 年 10 月開催)において「平成 18 年度電子ジャーナル等経費の取り扱いについて」として審議・了承され、平成 18 年度予算において継続導入に向け検討されていくこととなりました。

平成 18 年度からは、工学部と医学部で購読していた電子ジャーナル 2 タイトルについて共通経費化

するとともに、EJ 経費では、電子ジャーナルを購入し、冊子については、購読希望者に相応の受益者負担をお願いすることとしました。

また、2005 年より Springer 社と Kluwer 社が合併しましたので、旧 Kluwer 社の電子ジャーナル、約 650 タイトルが新たに利用できるようになります。

3. 学術データベースの整備について

「平成 18 年度電子ジャーナル等整備計画」におい

平成 18 年度電子ジャーナル等経費による整備方針

- ①安定提供のために、部局負担で購読している電子ジャーナル(Nature, APS)をEJ(電子ジャーナル)共通経費にて購読する。
- ②EJ 共通経費で電子ジャーナルを購読する。EJ 共通経費に関連する冊子を購読する場合は、*のついたコレクションについては雑誌購読価格の 30%、その他のコレクションについては 100% を冊子購読希望者が負担する。
- ③化学を主分野とする ScifinderScholar の経費の内、1/2 を工学部が負担する。

【表 1】

17 年度コレクション

EJ 共通経費		
コレクション名	EJ タイトル数	冊子 体購読数
Elsevier	1,800	49
ACS (American Chemical Society)	30	3
Springer	450	12
ProQuest (Health and Medical Complete)	450	
ProQuest (Academic Research Library)	2,000	
ACM (Association for Computing Machinery)	73	
IEEE Computer Society	24	
合 計	4,827	64

部局購読 EJ		
コレクション名	EJ タイトル数	購読部局
Nature	16	医学部
APS (American Physical Society)	8	工学部
合 計	24	

18 年度コレクション

EJ 等共通経費	
コレクション名	EJ タイトル数
* Elsevier	1,800
* ACS (American Chemical Society)	30
* Springer+Kluwer	1,128
ProQuest (Health and Medical Complete)	450
ProQuest (Academic Research Library)	2,000
ACM (Association for Computing Machinery)	80
IEEE Computer Society	22
Nature	16
APS (American Physical Society)	8
合 計	5,534

では、電子ジャーナルの整備だけでなく学術情報データベースについても、本学の教育・研究に必要な情報資源として、継続的に提供できるようにするため、平成 17 年度両図書館で購読しているものを共通経費化し、整備・充実を図ることとしました。

また、文京キャンパスでは、化学情報に関する情報検索システムである CAonCD を工学部等の経費により維持して参りましたが、研究費等の減少により、平成 16 年度で購入中止したため、化学系の最新情報の入手が困難な状況となっていました。

そのような状況のもと、工学部及び大学当局のご努力により、平成 17 年 9 月より SciFinder Scholar が利用できるようになりました。

このデータベースは、化学を中心とする医薬、生化学、物理、工学等の科学情報を必要とする大学研究者が自ら利用することを想定したエンドユーザ向けのオンライン検索サービスで、医学図書館でも利用が可能となっています。

また、外国雑誌目次データベース検索システム (Table of Contents Service) と看護学関係論文データベース (CINAHL) については、両キャンパスで利用が可能となっています。

そのほか、松岡キャンパスのみの利用となっている学術雑誌のインパクトファクタを調べるデータベースであるところの JCR (Journal Citation

Reports) についても、平成 18 年度から文京キャンパスでの利用を可能とし、平成 18 年度は、両キャンパス合わせて 8 タイトルの利用ができます。

表 2 に平成 18 年度両キャンパスで利用できるデータベースについて記載します。

4. 今後の整備・拡充に向けて

このように、本学では、電子ジャーナルをはじめとする、電子情報資料の拡充を進めて参りましたが、昨今の国立大学における財政状況は、益々、厳しくなると思われます。

また、電子ジャーナルの価格についてもほぼ毎年 5～6%程度値上がりしており、今後も値上がりしていくものと思われます。

このような状況のもと、学術情報資源を整備し、本学全ての構成員の教育・研究活動に資するよう環境を充実していくため、図書館では、今後も利用説明会やトライアル等を実施するとともに利用者アンケートや学部調査等を行い、学術情報資料の整備方針や購読タイトルの見直しを行い、より充実したサービスの提供を実施していきたいと思えます。

教職員・学生の皆様におかれましても、電子ジャーナルや学術情報データベースを十分に活用して頂くとともにご意見・ご要望を図書館にお寄せ願います。

【表 2】

データベース名	利用 キャンパス	内 容
外国雑誌目次データベース検索システム (Table of Contents Service)	文京・松岡	全世界で刊行されている外国雑誌の目次情報が検索できるデータベース
JDream	文京	科学技術文献速報の他に多種のデータベースが利用可能
医学中央雑誌	松岡	国内医学雑誌論文のデータベース
CINAHL	文京・松岡	看護関係を中心とした雑誌論文データベース
EBMR (Evidence Based Medicine Review)	松岡	斯界の専門家によって選択・評価された最新・最前の医療情報データベース
UpTo Date	松岡	医師が医師のために作った医療支援ツール
JCR Science Edition	文京・松岡	雑誌の重要度、影響度を把握する指標 (インパクトファクター) を調査できるデータベース
SciFinder Scholar	文京・松岡	化学を中心とする医薬、生化学、物理、工学等の科学情報データベース

医学部における 学術情報基盤アンケートについて

学術情報課課長補佐 木村 幹明

きむら・もとあき



はじめに

電子ジャーナルは大学の教育・研究・診療の推進に必要な不可欠なものとなっており、本学でも約5,600タイトルを提供している。平成17年度はこれらの電子ジャーナルとプリント版の購読に必要な予算全額が、大学全体の経費（図書館共通経費）でまかなわれている。しかし、18年度から学部負担で購読していた電子ジャーナルも共通経費化することになり、購読に必要な額が増加したため、図書館共通経費では電子ジャーナルを購読し、プリント版は医学図書館をはじめとした各セクションが応分の負担をすることが決定された。

このことにより医学図書館の現状予算では、十分なサービスの提供が困難になることが予想され、解決策として電子ジャーナルで提供されているプリント版の購読中止などを検討する必要がでてきた。そこで医学部における今後のサービス展開の参考とするため、電子ジャーナルおよび学術文献データベースの「利用度、満足度、必要とするサービス、経費負担方法」や、課題である「電子ジャーナルに対応するプリント版の必要性」について意向調査を行った。

あわせて学術文献データベースについても同様の調査を行い、今後の医学部における学術情報基盤整備の資料とすることとした。

なお、本調査の各回答は医学図書館運営小委員会における資料整備方針策定のための資料とする予定である。

第1部「電子ジャーナルに関するアンケート」集計結果

調査の概要

- 調査方法：医学部キャンパス（松岡地区）以外からアクセス不可能な「Web アンケートシステム」を利用することにより不正回答を防ぎ、アンケートは記名方式を採用し同一人物による重複回答を防ぐこととした。
- 実施期間：平成17年10月17日（月）～11月18日（金）
- 調査対象と回答者数：①教員（医学部、附属病院、各センター）、②附属病院医療職員、教務職員、③大学院学生（修士・博士）の全員を調査対象とした。全体の回答率は28%、身分別では教員の回答率が40%となっており、医学部全体傾向を知ることができる。

調査の結果

- 今回はページ数に制限があるため主要な集計結果についてのみ考察する。

・電子ジャーナルの利用頻度

回答者の59%（78件）が電子ジャーナルを非常によく利用していることがわかる。（「ほぼ毎日利用している（20%、26件）」+「週に1～2日程度利用している（39%、52件）」）

・電子ジャーナルを使用しない理由

「利用したいタイトルがない」,「研究分野の収録が少ない」をあわせて 40%(全 25 件中の 10 件)になる。「電子ジャーナルを利用しない」のではなく、「利用する電子ジャーナルがない」グループが相当数存在しているということがわかる。

・電子ジャーナルは必要か

「絶対に必要」と「ある程度必要」をあわせて 96% (全 132 件中の 127 件) を超えている。このことから電子ジャーナルを積極的に整備する必要性が伺える。

・電子ジャーナルのバックファイル必要期間

50% (全 132 件中の 67 件) が「近 10 年分にアクセスできれば満足する」と回答している。

本学では Science Direct は近 11 年分 (1995 -), Springer と Nature が近 9 年分 (1997 -) アクセスできる。主な電子ジャーナルについては、回答者の半数の需要を満たしていると考えられる。

・よく利用する電子ジャーナル

アンケートから見るとベスト 4 は、「1 位:ProQuest-HMC= 医学系」,「2 位:Science Direct (Elsevier) = 全分野」,「3 位:Springer-LINK= 全分野」,「4 位:Nature Publishing Group= 自然科学系」である。

利用統計 (2005 年 1 月~ 10 月) から見るとアンケート結果とは全く異なり、「1 位 =Science Direct 21,192 件」,「2 位 =Nature Publishing Group 3,026 件」,「3 位 =ProQuest-HMC 2,589 件」,「4 位 =Springer-LINK 1,324 件」の順となり、Science Direct の利用が圧倒的に多い。

利用者の意識と、実際の利用頻度には相当ずれがあるため、資料整備計画を策定するにあたっては、アンケート結果と利用統計の両方を参考にすることが必要であることが判明した。

・電子ジャーナル満足度と不満理由

回答者の 66% (有効回答全 122 件中の 81 件) が電子ジャーナル・サービスに不満を持っている。この数値は無視できないものと考えられる。専門分野別に見ると、臨床医学分野の不満 67% (有効回答全 54 件中の 36 件) を大きく上回り、基礎医学分野の不満が 80% (全 33 件中の 26 件) にも及んでいる。このことから基礎医学分野の電子ジャーナルを充実する必要があることが読み取れる。

不満であると回答したグループが回答として掲げた「自分の研究分野の電子ジャーナルが導入されていない」が 45% (全 150 件中の 67 件) と最も多かった。「電子ジャーナル満足度」の回答とあわせ、新たな電子ジャーナル・サービスの必要性を示している。

・導入希望サービスの有無

「電子ジャーナル満足度」では 66% が「不満」と回答している。これよりやや下回るが 52% (全 132 件中の 68 件) が新たな電子ジャーナル・サービスを望んでいる。

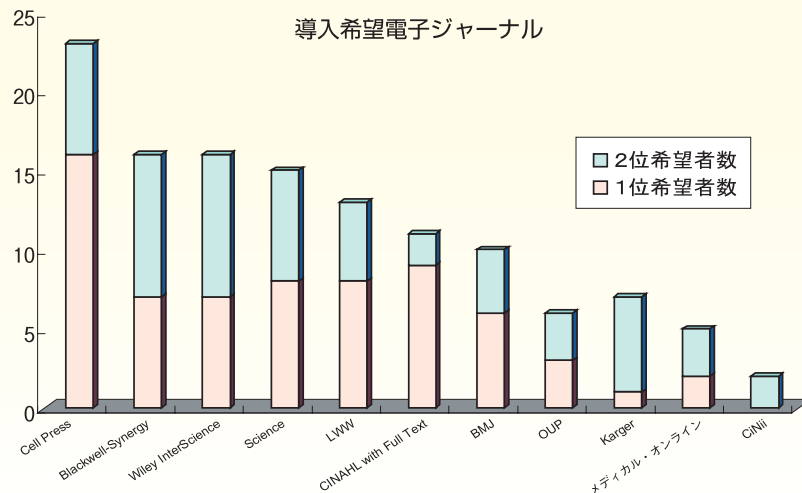
専門分野別に見ると、基礎医学分野の回答者が新規の電子ジャーナル・サービスを希望する割合が 76% (全 33 件中の 25 件) と非常に高い。この質問からも基礎医学分野の電子ジャーナル・サービスの充実が必要であることが伺える。

・導入希望の電子ジャーナル

第 1 希望に 10 ポイント、第 2 希望に 5 ポイントを付与して集計を行った。その結果、「Cell Press」が 23 人 (195 ポイント) と圧倒的に希望が多く、「Blackwell」,「Wiley」,「Science」の 3 つが同率 2 位 (16 人 115 ポイント) となっている。

「Cell Press」希望者の所属は、基礎医学分野を中心に臨床医学分野まで幅広く及んでいる。

「CINAHL with Full Text」は全体的に見れば 6 位であるが、第 1 希望グループだけを見ると「Cell Press(16



人)」に次いで2位(9人)となっており、看護学分野における要望が現れている。

国内雑誌の電子ジャーナル「メディカル・オンライン」は、アンケートでは希望順位10位(35ポイント)と低いが、トライアルでは3カ月間に364件(121件強/月)のフルテキスト閲覧があった。今回のトライアルでは最新号を利用できないにもかかわらず、かなりのアクセスがあったということは一定の需要があることが推測される。

・新規導入に必要な財源

新たな電子ジャーナル・サービスを提供するために必要な予算は「医学部全体として予算を確保する」という回答が81%(全68件中の55件)を占めた。「全学的に予算を確保する」という選択肢を示さなかったために、このような結果となったことが推測される。

・電子ジャーナルで利用できる雑誌のプリント版の必要性

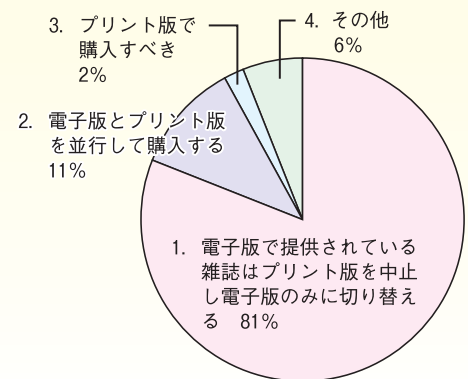
「電子ジャーナルで利用できる雑誌のプリント版を購読する必要があるか」との質問には、81%(全132件中の108件)が「中止してもよい」という回答であった。

専門分野別に見ても、全ての分野で「電子ジャーナルのみによる学術情報提供」を許容した回答が圧倒的に多い。

まとめ

- アンケート回答者の60%が電子ジャーナルを非常によく利用しており、電子ジャーナルの整備をさらに推進する必要を認めた。
- アンケート回答者の61%が「利用できる電子ジャーナル・サービスの種類」に不満を持っている。特に基礎医学分野の不満は80%と非常に高く、この分野の電子ジャーナルをさらに充実する必要性を認めた。
- 新規に電子ジャーナル・サービスを提供するための予算は、本来ならば「全学的に予算を確保する」ことが最も望ましい。しかし、法人化以後の厳しい予算状況を考えてみると、現状以上の予算を新たに確保する見込みは全く立たない。医学部における学術情報基盤をさらに整備するため、医学部は予算をどのように確保するか、重い問題が提起された。

電子ジャーナルで利用できるプリント版の必要性



- 「電子ジャーナルで利用できる雑誌のプリント版は必要か」との質問には、81%が「中止してもよい」という回答をしている。これを受けてプリント版を中止し、その予算を有効活用する視点に立った資料整備計画を策定する必要を認めた。

第2部「学術文献データベースに関するアンケート」集計結果

調査の概要

- 調査方法と実施期間については、「電子ジャーナルに関するアンケート」と同一である。
- 調査対象と回答者数：①教員（医学部，附属病院，各センター），②附属病院医療職員，教務職員，③大学院学生（修士・博士）の全員を調査対象とした。全体の回収率は21%，教員の回収率は29%と電子ジャーナルに比べてやや低いが，ほぼ全分野からの回答を得ることができた。

調査の結果

- 電子ジャーナルのアンケートと同様に主要な集計結果について考察する。

・データベース利用頻度

回答者の64%(全98件中の63件)がデータベースを非常によく利用している。この比率は電子ジャーナル・アンケートの利用頻度とほぼ一致している。（「ほぼ毎日利用している29件」+「週に1～2日程度利用している34件」）

専門分野別に見ると，基礎医学分野が突出してデータベースを利用している。63%（全27件中の17件）が「ほぼ毎日利用している」と回答，「週に1～2日程度利用している」と回答したグループをあわせると90%（全27件中の24件）にも及ぶ。

・データベースは必要か

「絶対に必要」が85%（全98件中の83件），「ある程度必要」が13%（全98件中の13件），両方をあわせると，電子ジャーナルの同様の質問に対する回答79%を上回り，ほぼ100%となる。

・各データベースの利用頻度

よく利用するデータベースのベスト5は，1位：PubMed（よく利用している87件，利用したことがある7件），2位：医中誌Web（よく利用している58件，利用したことがある17件），3位：JCR（よく利用している17件，利用したことがある21件），4位：EBMR（よく利用している12件，利用したことがある29件），5位：CINAHL（よく利用している12件，利用したことがある17件）である。この中でCINAHLは対象分野が看護に限定されているにもかかわらず第5位となっており，非常によく利用されていると評価してよいであろう。

（注：JCR=Journal Citation Reports）

EBMによる医療を支援するデータベースであるEBMRは臨床医学分野の57%（96件中の55件）が，UpToDateは68%（全96件中の65件）が「利用したことがない」と回答している。

JCRの利用では「ほぼ毎日利用する」との回答はないが，これは研究動向を把握する場合も，研究者評価のために利用される場合も，ある程度のサイクルで利用されることになるため，当然の結果といえる。全体の利用者の59%が「利用したことがない」と回答しているため，このデータベースについても利用方法などを周知し，学術研究に役立つものであることを積極的に伝える必要がある。

・データベース満足度と不満理由

回答者の85%（全98件中の83件）が現状のサービスで「満足している」と回答している。

専門分野別に見ると，満足度が最も高いのは基礎医学分野で，96%（全27件中の26件）とほぼ全員が満

足している。比較的満足度が低いのは看護学分野で 20% (全 15 件中の 3 件) が「不満である」と回答している。

利用頻度別に見ると、「不満である」と回答したグループでも「月に 1～2 日程度利用している」を含めると 92% (全 13 件中の 12 件) となっており、一応利用できるデータベースがあることが推測される。

不満の理由として最も多いのは、「過去の論文が検索できない」の 36% (全 28 件中の 10 件) であった。しかし、外国雑誌の論文 (PubMed) は 1951 年から検索でき、国内発行の論文は医中誌が 1983 年から、国立国会図書館の雑誌記事索引は「人文科学編」が 1948 年、医学関連分野を含む「科学技術編」が 1975 年から検索が可能である。看護学分野の CINAHL は比較的遡及年数が少ないが、雑誌によっては 1982 年からの検索が可能である。

各種データベースを併用することにより相当古い年代からの検索が可能であるが、利用者これらの情報が十分に伝わっていないと思われる。医学図書館 Web 上に、年代別にデータベースを使い分けられるメニューを用意するほか、学内への周知が必要と考えられる。

・データベース整備の必要性和導入希望データベース

「データベース満足度」で、85% (全 98 件中の 83 件) が満足と回答しているが、その結果が示すとおり、ほとんどの回答者 (74% 全 98 件中の 72 件) が「現状のままでよい」としているため、当面は現在のデータベースを提供していけばよいと考えられる。

専門分野別に見ても、ほとんど全体の傾向と同じであるが、看護学分野において「整備すべき」との意見が 20% (全 14 件中の 3 件) と他の分野に比べると多い。

同時に実施した「電子ジャーナルに関するアンケート」では、学術論文の引用文献データベースである Web of Science や、診療用ツールである Clinical Evidence が新規要望として掲げられている。

・新規導入に必要な財源

「質問 9 データベース整備の必要性」で「今後さらにデータベースを整備すべき」と回答したグループに対する質問のため、回答数は 18 と少ないが、72% (全 18 件中の 13 件) が「医学部として予算を確保する」と回答している。

「その他」の回答は 4 件あり、その中の 50% (全 4 件中の 2 件) が「大学として確保」するように求めている。これについては 18 年度から医学・総合両図書館で必要なデータベース購読予算を附属図書館共通経費として一本化することになっているが、学部によって必要なデータベースが異なるため、いくつかの問題も抱えている。このほかには「外部資金の中から一定割合を拠出する」との回答もあった。

まとめ

- 電子ジャーナルと同様にアンケート回答者の 64% がデータベースを非常によく利用しており、ほぼ 100% 近くが「研究活動のために必要」としており、学術文献データベースの有用性があらためて示されている。
- アンケート回答者の 85% が現状のサービスで「満足している」と答えているので、当面は現在のデータベースを提供していけばよいと考えられる。しかし、看護学分野の不満が 20% と分野別では最も高いため、この対策を講じる必要がある。
- JCR が個人評価のためにも利用されていることを考えると、同時に実施した「電子ジャーナルに関するアンケート」の中で導入希望のあった、学術論文引用文献データベース (Web of Science や Scopus 等) の導入も視野に入れることが考えられるが、非常に高額なため全学的な見地から検討する必要がある。
- 「EBM による医療」を支援するデータベースである EBMR と UpToDate があまり利用されていない。これらのデータベースは臨床医学分野の要望に応えるために導入されたもので、利用率のアップが今後の課題である。

なんとも懐かしいランドセルと木製の椅子ですが、実はペーパークラフトのディスプレイです。

夏は七夕飾りや蚊取り線香など季節に応じて模様替えが行われています。

で、どこにディスプレイされているかというと、総合図書館（文京地区）のカウンタ前なのでした。

「図書館？ 本はたくさんあるけど古いものばかり」という印象を持ってはいませんか？



知ってた？ 毎年2500冊も新たに配架されてきて

確かに古い本（もう入手できない貴重な本でもあります。）も多いのですが、総合図書館では、毎年約2500冊もの新しい本を受け入れています。



これらの新しい本は、3階閲覧室等に配架されるまえに展示されていることをご存知ですか？

なかなか気づいてもらえないのですが、カウンタ前のコーナーにしばらく展示しています。（展示しているといっても、借りることもできます。）

少しでも目を引きたいということで、この新着コーナーの一隅にさきほどのペーパークラフトもディスプレイしています。

あなたの作品を飾ってみませんか？

ちいさなスペースですが、写真でも造形作品でも展示してもいいなあ、ということがありましたら総合図書館カウンタにご相談ください。皆さんの作品をお待ちしています。

更に表紙カバーなどは、入口横の掲示板に貼り付けて、少しでも興味を抱いていただこうと努力しているのですが……。

気がついてくれているでしょうか。



2階閲覧室には、国勢調査や教科書、新聞縮刷版などが配架されていますが、今回特に「現代的な教養教育」に資するための図書が配架されました。



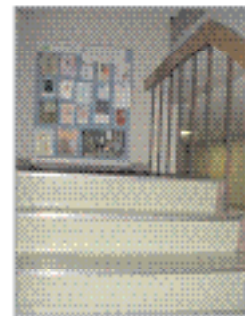
GP図書って？

これらの図書は、現代的で幅広い教養を自主的に身につけてもらうためのもので、いわば「学問へのいざない」です。

図書館では、これら

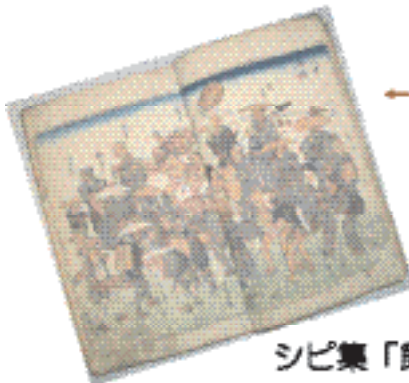
を「GP 図書」(図書の背にラベルを貼付してあります。)として、3階閲覧室の開架とは別に配架しています。

「GP 図書」の新着分は、2階に上る階段の途中の踊り場でも、図書カバーをディスプレイしています。



「GP図書」は、福井大学が平成11年度から取り組んできた『学生がより高い現代的な教養を、自主性をもって身に付けるために、…実施してきた教養教育』が、文部科学省プロジェクトの「特色GP (Good Practice)」として平成17年度に採択されたことを受けたものです。

「採択された本学の取組み「より高い現代的な教養教育をめざして」の概要」
(<http://www.fukui-u.ac.jp/NewsP1032/notify/h17-gp1-1.pdf>) から引用



←歌川広重が挿絵を描いている「東海道風景版画」(寛永4年 1851)

古い本も…

例えば、江戸時代に発行された本で、東海道中膝栗毛で有名な十返舎一九が書いた餅菓子のレシピ集「餅菓子即席増補手製集」や、浮世絵で有名な

歌川広重が挿絵を描いている(版画)道中案内記が総合図書館にあることを知っていますか？

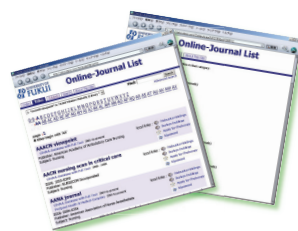
総合図書館では、これらの貴重な資料を知っていただくために小さな展示会も行っています。

ぜひ一度(と言わず何度でも)気楽に図書館へ足を運んでみてください。



図書館に行ってみよう

ご存知ですか？ 電子ジャーナル・データベースの利用法

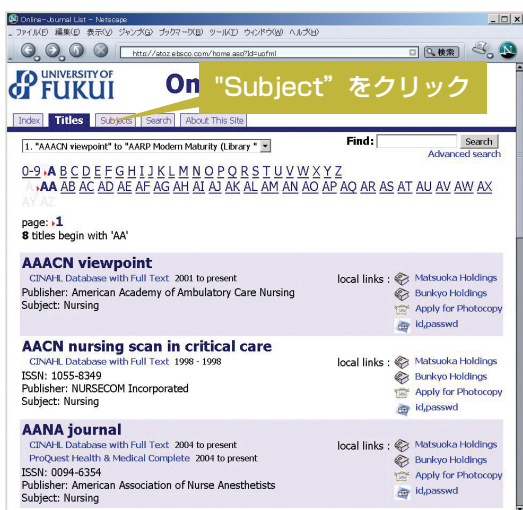


電子ジャーナルや（文献）データベースを一度も使ったことなかった人が、使ってみてこんなに便利なものだとは知らなかったという話を良く耳にします。医学・理工学分野だけでなく、人文・社会学系の広い分野でも数多くの情報を得ることができますので、使ったことのない方も是非一度試していただけたらと思います。今回は、利便性が高いと思われる電子ジャーナル及びデータベースの利用法について2点紹介させていただきます。

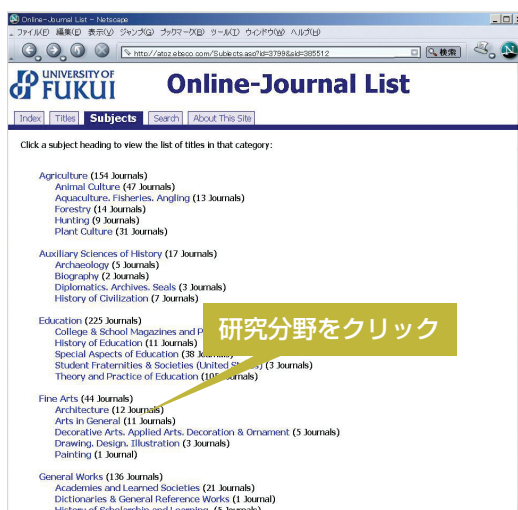
電子ジャーナルの分野別タイトル一覧があることをご存知ですか？

本学で利用できる電子ジャーナル一覧には、アルファベット順一覧以外に分野 (Subject) 別に雑誌のタイトルが振り分けられた一覧を用意しています。タイトルを特定せずに、自分の研究分野から文献（雑誌論文）を探そうとするときに有効な手段だといえます。

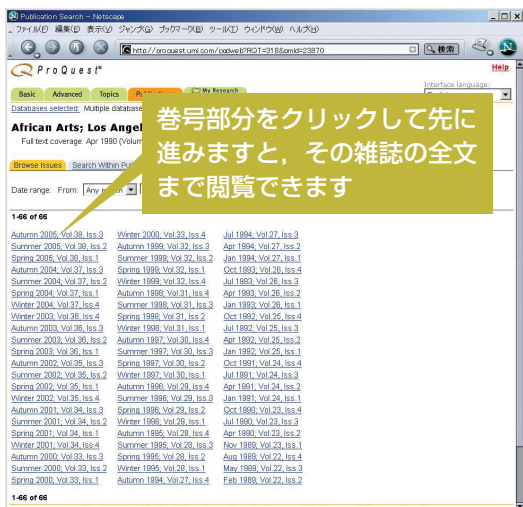
① [http://atoz.ebsco.com/home.asp?id=uofml] にアクセス



② 分野別一覧から研究分野を選択



④ 該当雑誌の全文閲覧へ



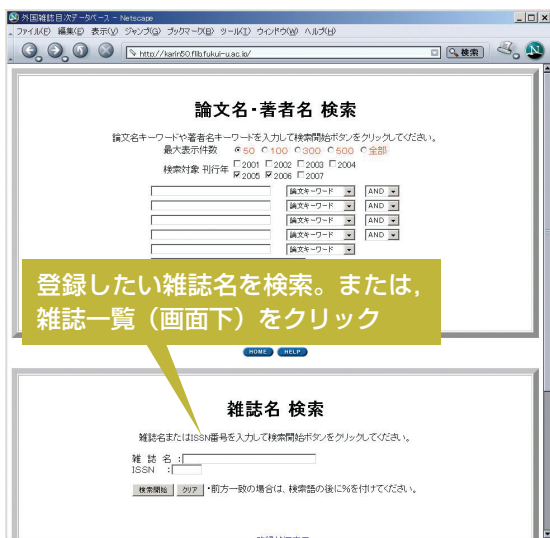
③ 雑誌タイトルを選択



雑誌の最新号のコンテンツがメールで送られてくるサービスをご存知ですか？

雑誌のタイトルと自分のメールアドレスを登録しておくことで、該当雑誌の最新号が発行されるごとにそのコンテンツ（雑誌目次）がご自分のメールに届けられるサービスです。最初に必要な情報を登録するだけで、後は自分で操作することなく最新の情報を手に入れることができる便利なツールです。（この機能は、外国雑誌目次データベース検索システムによるもので、全世界で刊行されている約15,000タイトルの雑誌データを収録しています。）
 なお、このサービスを希望する雑誌タイトルは、複数登録いただけます。（①～③の作業を繰り返します。）

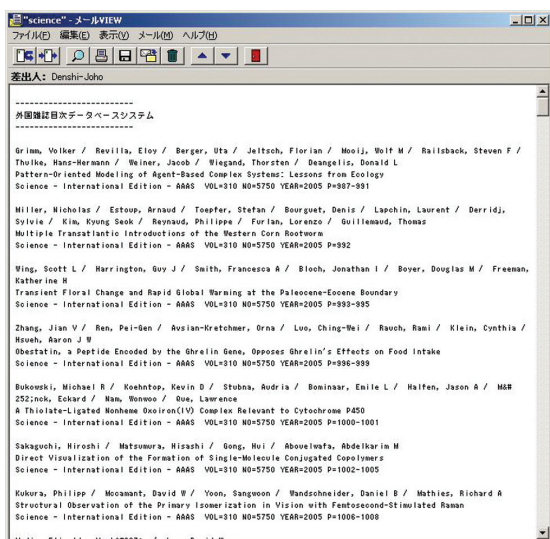
① [http://karin50.flib.fukui-u.ac.jp] にアクセス



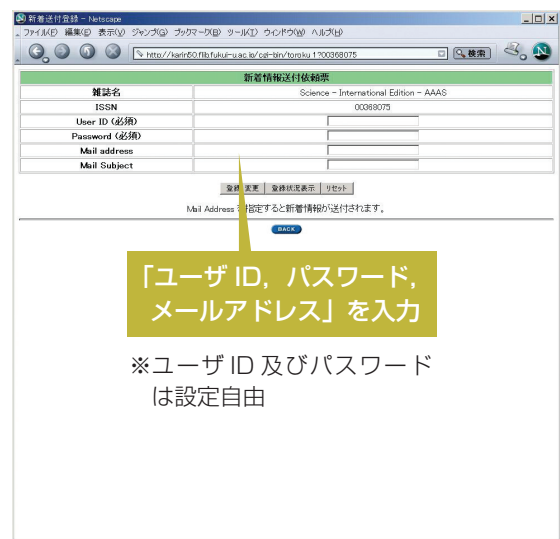
② 登録希望雑誌タイトルを選択



④ 新刊のコンテンツがメールで送付



③ 必要項目を入力



※ユーザID及びパスワードは設定自由

information

お知らせ

医学図書館（松岡キャンパス）で、一般の方への貸出を始めました。
また、元教職員、卒業生の方は貸出冊数を増やしました。

対象者	貸出冊数・期間
一般の方	図書のみ 2 冊・1 週間 (期限の延長は不可)
本学元教職員 本学卒業生	図書等 5 冊・1 週間 (本学教職員・学生に準じる。)

*詳細はカウンターにお問い合わせいただくか、医学図書館ホームページ
(<http://www.lib.fukui-med.ac.jp/>) をご参照ください。

寄付金により学生用図書が充実しました。

福井大学医学部（旧福井医科大学）の卒業生である土田晋也先生（つちだ小児科院長）より学生用図書充実を目的としたご寄付をいただき、学生用図書（標準シリーズ：医学書院）を医学図書館に備え付けさせていただきました。

また、総合図書館（文京キャンパス）では工学部学生育成会から寄付をいただき、学生用図書を充実させました。これらの図書は有効に活用させていただきます。

寄贈図書により学生用図書および患者さま用図書が充実しました。

医学部父兄後援会より学生用図書、財団法人福和会より患者さま用図書をご寄贈いただき医学図書館に備え付けさせていただきました。

財団法人福和会より寄贈いただいた図書で患者さま向けに病気や体についてやさしく解説してある図書を集めた「心とからだの本」コーナーを開設するなど、これらの図書は有効に活用させていただきます。

奨学寄附金の受入が決定いたしました。

平成 17 年 11 月に申請していましたが、「和装本を中心とする貴重書の保管室の整備」として（財）田嶋記念大学図書館振興財団から寄付金を受け入れる事が決定しました。今後、和装本専用書架を総合図書館に設置し、資料を集中することにより、研究者の効率的な研究や効果的な広報・資料管理が期待できます。